

かほく

# ワークシート

## 問題

- ①カリフォルニア州の日本人街は、なんと呼ばれていますか。
- ②二世週祭では何を祝いますか。
- ③宮城県人会の大場弘毅副会長は、七夕祭りの人気はどんなことだと言っていますか。

(小学校中学年以上／家庭学習など)



二世週祭で行われる七夕祭りの様子

米カリフォルニア州の日本人街「リトル東京」で毎年8月、南カリフォルニア宮城県人会が開く七夕祭りが10周年を迎える。日系人のほか、大勢の米国人が会場を訪れ、宮城の夏の文化に触れている。

七夕祭りは日系人の文化や歴史を祝う二世週祭(8月11、19日)のメインイベントの一つで、11、12日に開催。色とりどりの吹き流し(約2〜4尺)150本以上が会場の中心部約80尺にわたって飾られる。

願い事が、さまざまな言語で書かれた短冊が祭りを彩る。大場弘毅副会長(73)は「国は違っても子どもの願い事は似ている。短冊を見ていると、世界が一つになったような幸せな気持ちになる」と笑顔で語る。

七夕飾りはほとんどが手作

り。4月から定期的にワークショップを開き、地域住民らが作成する。大場副会長は「多種多様な文化が共存する米国で、人種や宗教、性別、年齢などを問わずに楽しめることが人気の理由」と言う。

祭りを発案したのは、今年で就任24目になる米沢義人会長(88)。他州への移住などでリトル東京在住の日系人が減少傾向にあったことを踏まえ、日系人同士のつながりを強め、地域の活性化につなげようと2009年に始めた。

和菓子製造の白松がモナカ本舗(仙台市)が前年に使用した吹き流しなどを、スタート当初から無償で提供されている。短冊は、七夕飾り製造の鳴海屋紙商事(同)から購入した和紙を使用。デザインの助言も受けている。

二世週祭は1930年代に始まり、毎年3万人が訪れる。米沢会長は「これからも七夕祭りを続けて、より多くの人に魅力を知ってもらいたい」と話す。

# 仙台七夕日米出会、10周年

## カリフォルニアで来月開催

宮城県人会